

2月23日にIPMU研究棟竣工記念式典挙行

IPMU研究棟の竣工を記念して、2010年2月23日(火)に記念式典と祝賀会が開催され、来賓および学内関係者など約150名が出席しました。研究棟の中心部である3階の藤原交流広場を会場として行われた式典は、東京大学音楽部管弦楽団の弦楽四重奏を合図に開始されました。村山機構長の喜びと感謝のスピーチに続き、東京大学の濱田純一総長が挨拶され、IPMUへの期待を述べられるとともに、東京大学が設立を検討中の「高等研究所」のひとつにIPMUを位置づけ、学内における恒久化と一部の教員ポストのテニュア化を図るとの決意を表明されました。(村山機構長と濱田総長のスピーチは<http://www.ipmu.jp/ja/node/643>をご覧ください。)その後、文部科学省科学技術・学術政策局の岡谷重雄科学技術・学術戦略官とWPIプログラムディレクターの黒木登志夫日本学術振興会学術システム研究センター副所長に祝辞をいただき、また、設計者の大野秀敏東京大学新領域創成科学研究科教授が、この研究棟の設計にあたり「研究者達のコミュニケーションを誘発する『力のある場所』としての魅力を追求」したことなどを紹介されました。



祝賀会は、研究者、職員などIPMU関係者で構成される「IPMU室内管弦楽団」と東京大学音楽部管弦楽団の共演で、グスタフ・ホルストの組曲「惑星」より「木星」の演奏が行われるなど、厳かな式典とは打って変わり和気藹々とした雰囲気で盛会でした。



IPMU佐藤勝彦主任研究員、平成22年度日本学士院賞を受賞

2010年3月12日、日本学士院からIPMU主任研究員の佐藤勝彦特任教授を平成22年度日本学士院賞受賞者に決定したことが発表されました。受賞理由は、力の統一理論に基づき、誕生直後の宇宙が加速的に急激な膨張(インフレーション)を起こし、その後熱い火の玉となったという理論を世界に先駆けて提唱した功績「加速的宇宙膨張理論の研究」です。

前田啓一氏が日本天文学会研究奨励賞受賞

2010年1月23日にIPMUの前田啓一特任助教が「超新星爆発構造の理論・観測的研究」により2009年度日本天文学会研究奨励賞受賞者に決定したことが発表されました。超新星からの放射の理論計算の手法を開発し、すばる望遠鏡などの観測により超新星爆発構造を突き止めた功績によるものです。日本天文学会2010年春季年会中の3月25日、通常総会で受賞式が執り行われました。

IPMU梶田隆章主任研究員、第1回戸塚洋二賞受賞

2010年2月14日に平成基礎科学財団から、東京大学宇宙線研究所長でIPMU主任研究員を兼ねる梶田隆章氏が第1回戸塚洋二賞受賞者に決定したこと

が発表されました。この賞は、ニュートリノ実験または非加速器素粒子実験、あるいは関連する理論研究において優れた成果をあげた研究者を表彰するため新たに設けられたものです。受賞理由は「大気ニュートリノ振動の発見」で、スーパーカミオカンデ実験において故戸塚洋二氏と共に指導的・中心的な役割を果たし、ニュートリノ質量の存在と、弱い相互作用のレプトン混合の存在を世界で初めて発見した功績によります。受賞式は2010年3月21日に行われました。

田中雅臣博士研究員、東京大学総長賞を受賞

IPMUの田中雅臣博士研究員が「超新星爆発の観測的・理論的研究」により平成21年度東京大学総長賞を受賞しました。すばる望遠鏡を用いた観測的手法と、数値シミュレーションを用いた理論的手法によって、爆発が複雑な三次元構造をしていることを明らかにし、そのメカニズムの解明に新たな道筋を開いた功績を評価されました。受賞式は2010年3月24日に行われました。

レゲット教授の東京大学名誉博士称号授与式・記念講演会

IPMUの招待で来日されたイリノイ大学のサー・アンソニー・J・レゲット教授に、東京大学より名誉博士称号が授与されました。本学や日本の学術文化、特に物理学の発展と教育への顕著な貢献に対するものです。レゲット教授は、液体ヘリウム3の超流動現象を理論的に解明した功績により、2003年にノーベル物理学賞を受賞しています。2010年3月12日に東京大学本郷キャンパスの小柴ホールを会場として授与式と記念講演会が行われました。講演後には、理学系研究科とIPMUの共催で、レゲット教授と学生及び若手研究者らとのティータイム・ディスカッションが催されました。

多摩六都科学館でサイエンスカフェ「宇宙」開催

2010年1月から3月にかけて、東京都西東京市の多摩六都科学館で、IPMUと

同科学館の共催により2009年に引き続き2回目となる「サイエンスカフェ『宇宙』」が開催されました。今回は、1月30日(土)に杉本茂樹特任教授が「ひも理論の奇跡：究極の物質像をめぐって」、2月20日(土)に高田昌広特任准教授が「宇宙の黒幕『暗黒物質』を探せ!」、3月6日(土)に村山斉機構長が「宇宙のしわと種」と題し、講演を行いました。この企画は参加者との交流を重視するもので、前回同様、参加者は和やかな雰囲気で講師との対話を楽しんでいました。

高校生のためのサイエンスキャンプ「現代数学と現代物理学の遭遇」開催

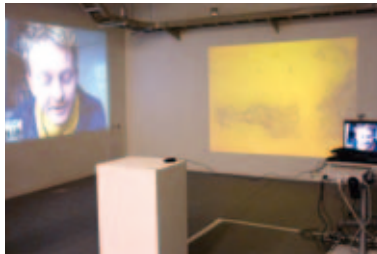
2010年3月23日-25日の3日間、IPMU研究棟の1階セミナー室を会場として、高校生のためのスプリングサイエンスキャンプ「現代数学と現代物理学の遭遇」が開催されました。サイエンスキャンプは、JST(科学技術振興機構)が受け入れ機関を公募し、採択された研究機関の第一線で活躍する研究者が高校生に対して3日間直接指導を行い、交流を深めるプログラムです。IPMUでは、数学者の土屋昭博特任教授がリーダーとなって提案した標記のテーマが採択されました。全国から応募して選ばれた20名の高校生が3日間寝食をともにしながら数学の講義を受け、IPMU研究者のティータイムにも参加しました。受講した高校生から「学校の授業とは違う数学の世界を見ることができて、とても楽しかった」「多くの友達ができ嬉しかった」などの感想が寄せられました。



IPMUアート展「Searching for the Other Physics」

2010年2月3日から27日まで、IPMU関係者の親睦団体「IPMUアーツサイエティ」が研究棟1階でアート展示

「Searching For the Other Physics」を開催しました。柏キャンパスの学内者向けでしたが、25日と27日には一般公開も行われ、50名ほどの一般客が訪れました。内容は、数学・物理・天文分野で宇宙に迫るIPMUの研究にインスピレーションを受けたアーティストたちによる絵画や映像などの共同展示で、初日には、オープニングレセプションとアーティストによる作品説明があり、出品者の一人でイギリス在住のアーティストとのビデオ会議での接続による作品解説も行われました(写真)。



ワークショップ： F-理論と楕円曲線ファイバー

2010年1月4日-8日の5日間、IPMUにおいて「ワークショップ：F-理論と楕円曲線ファイバー」が開催されました。F-理論とは超弦理論の定式化の一つであり、低エネルギーでの物理的帰結を導くには楕円曲線ファイバー構造を持つカラビ・ヤウ多様体の数学を駆使する必要があります。そこで物理から数学へまたがる各分野の専門家を集め、アイデアの交換と、この境界領域分野での研究の進展を促進することを目的としました。

フォーカスウィーク： 物性と素粒子の対話

2010年2月8日-12日にIPMU研究棟1階大講義室において「フォーカスウィーク：物性と素粒子の対話」が開催されました。詳しくは36-37ページをご覧ください。

ワークショップ： Geometry of Lattices and Infinite Dimensional Lie Algebras

2010年3月17日-19日にIPMU研究棟において「ワークショップ：Geometry of Lattices and Infinite Dimensional Lie

Algebras」が開催されました。

今後の研究会 Workshop on Recent Advances in Mathematics at IPMU, 2

2010年4月5日、6日の2日間、IPMU研究棟において「Workshop on Recent Advances in Mathematics at IPMU, 2」が開催されます。

今後の研究会 CL J2010: 巨大銀河形成から暗黒エネルギーまで

2010年6月28日-7月2日の5日間、IPMU研究棟においてIPMUとDENET(暗黒エネルギー研究国際ネットワーク)による国際研究会「CL J2010: 巨大銀河形成から暗黒エネルギーまで」が開催されます。銀河団は宇宙最大の自己重力系ですが、この研究会では、どのようにして銀河団中心に存在する巨大銀河が形成されてきたのかという問題から、銀河団の統計量を用いて可能になる暗黒エネルギー探査の可能性まで議論する予定です。

人事異動

IPMUの主任研究員、佐藤勝彦特任教授が2010年4月1日付けで大学共同利用機関法人自然科学研究機構の機構長に就任されます。これに伴い3月31日付けで主任研究員と特任教授を退任しますが、4月1日からIPMUの客員上級科学研究員として、今後も研究に参画されます。また、次の3名のIPMU博士研究員が転出しました。括弧内はIPMU在任期間です。

Jan Schuermannさんが米国ボストンのマサチューセッツ総合病院の研究員に(2008年9月19日-2010年2月28日)、Dongfeng Gao(高東峰)さんが中国科学院武漢物理・数学研究所の研究員に(2009年5月1日-2010年3月31日)、高見一さんがドイツのマックス・プランク物理学研究所の研究員に(2009年4月1日-2010年3月31日)それぞれ転出されました。